

1 はじめに

本校では、従来から、総合的な学習の時間においては地域学習に取り組んできた。「地域と共に生きる」を全体テーマに、将来において地域に貢献できる人材育成をねらいとし、学習を進めている。そのねらいに迫るために、学年ごとにテーマを設定し、1学年では地域の過去を、2学年では地域の現在を、3学年では地域の未来を活動内容の中心にとらえ、課題を追究してきた。

(1) 目 標

- ① 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- ② 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求的な学習に主体的・協働的に取り組む態度を育て、自分の住んでいる地域について考えることができるようにする。

(2) 育てたい力

- ① 横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心などに基づく学習などの過程を通じて自ら課題を見つけ、自ら学び考え、問題を解決するなどの「生きる力」を育てる。
- ② 情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方など、学び方やものの考え方を身に付け、問題解決に向けての主体的・協働的な態度を育成する。

(3) 全体テーマおよび学年テーマ

① 全体テーマ「地域と共に生きる」

地域の一員であることを自覚し、将来において地域発展のために貢献できる人間を育てていきたいという想いを実現するために、「地域と共に生きる」を学校全体テーマに設定し、地域について考える学習を進める。

② 学年テーマ

全体テーマを受けて、学年ごとに3年間を発展的・継続的に見通した学年テーマを設定することにより、目標に迫る。

・第1学年「地域を知ろう」

「特別活動推進事業」をきっかけとし、日立市や自分たちの住む地域に関心を持ち、地域の過去や歴史について課題を設定し追究する。

・第2学年「茨城県について知ろう」

職場体験や郷土検定の課題追究をもとに、地域や茨城県を見つめ直し、地域の現在に関する課題を設定し追究する。職場体験の他、宿泊学習の取り組みも課題追究との関連を図る。

・第3学年「他の地域を知ろう」

1・2学年で調べた内容を踏まえ、さらに修学旅行で現地体験したことをもとに地域や社会に貢献できる自分の考えをもつ。それをもとに、地域の将来発展に

向けた課題を設定し、追究して発信・提案・実践をする。

2 指導案等

(1) 単元名 職場体験学習（第2学年）

(2) 単元の目標

- 働く人と接し、自ら体験することによって、働くことの喜びと苦勞を理解し、社会に貢献しようとする意欲や態度を養う。
- 自分の個性や適正を把握し、自己理解を深めるとともに自分の新たな可能性を見つけることができる。
- 基本的なマナーや言葉遣いを身につけ、コミュニケーション能力を伸ばすことができる。
- 職場体験学習を通して学んだことを、適切に表現することができる。

(3) 単元設定にあたって

昨年度は「地域に学ぼう」をテーマに学習を進めた。「心豊かな体験学習」をきっかけに日立市や地域への関心を高め、地域の歴史や自然、産業を調べることで地域理解を深めてきた。また、地域の中で様々な立場にある人や生活をしている人とのふれあいや体験学習から自分の生き方を見つめ、よりよい生き方について考えてきた。

今年度は、職業について調べることから学習を開始した。それぞれの職業の特徴や、身近な人の職業について、その種類や仕事の内容を調べ、地域の産業に関心をもつなど職業についての理解を深めてきた。しかし、将来、自分自身がどのような職業に就きたいかということになると、まだ決まっていない生徒が多い。

そこで、職場体験学習を通して、働く喜びを体感させ、望ましい勤勞感を養いたい。また、様々な職場で働く人たちによって地域が支えられ、私たちの生活が成り立っていることに気づかせ、自分もやがて地域に貢献する存在になることを自覚させたい。また、多忙の中にありながら、中学生を受け入れて職場体験学習をさせていただけることに感謝の気持ちをもって、学習できる喜びを感じさせながら活動させるよう指導したい。

(4) 期待する成長の姿

- 働くことの意味や職業生活について理解することができる。
- 自己の将来を見つめることができる。
- 社会人としての生き方やルールを学ぶことによって生きる力を身につけることができる。
- 地域の人たちとふれあうことにより、地域に対する見方考え方を広げ、地域について考えようとする態度を身につけることができる。
- 様々な職業やそこで働く人々に目を向け、学習課題を設定し、課題追求をすることができる。
- 体験したことをまとめ、報告や発表・討論することができる。

(5) 単元計画（30時間扱い）

| 月 | 活動の流れ | 活動のねらい |
|----|----------------------------|---------------------------------------|
| 5 | 1 職場体験学習についてのオリエンテーションを行う。 | ・職場体験学習の目的や意義を理解することができる。 |
| 6 | 2 事業所を選定する。 | ・希望の職種を選び、自ら事業所を選定することができる。 |
| 7 | 3 職場体験学習計画を作成する。 | ・電話で事業所に依頼し、体験の内容や質問事項をまとめることができる。 |
| 8 | 4 事前打ち合わせをする。 | ・事業所に赴き必要事項の打合せをすることができる。 |
| 9 | 5 職場体験を実施する。 | ・体験を通し、働く喜びや大変さを学ぶことができる。 |
| 10 | 6 活動内容をまとめる。 | ・礼状を書いたり、体験内容について資料を使ってまとめたりすることができる。 |
| 11 | 7 発表会を行う。 | ・体験内容を聞き手にわかりやすく発表することができる。 |
| 12 | 8 レポートを書き、冊子にまとめる。 | ・体験を通して学んだことを各自でレポートにまとめることができる。 |

(6) 本時の学習活動

① 目標

- 職場体験学習で学んだことを職場ごとにまとめ、発表することができる。
- 職場ごとの発表を聞き、職業についての知識を深めることができる。

② 準備・資料

タイムテーブル、発表用掲示物、発表用原稿、感想用紙、自己評価カード

③ 展開

| 学習内容・活動 | 支援の手だて・◎評価 |
|--|---|
| <p>1 本時の学習を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>職場体験学習の発表会をしよう。</p> </div> <p>2 発表会を聞く。</p> <p>A TOHO シネマズひたちなか</p> <p>B ラブリードッグ</p> <p>C 南部図書館</p> <p>D ブックエース</p> <p>E 不二家</p> <p>F 秦病院</p> <p>G 水戸芸術館</p> <p>H かつば寿司</p> <p>3 自己評価を行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を確認することで生徒の学習意欲を喚起する。 ・発表を聞く時には自分と比較しながら真剣に聞くように助言する。 ・自分の発表のときは、その教室に行き一つ前の発表を聞くこととし、待機するよう指示する。 ・各グループの発表を聞くことで、実際には外部からは見えない作業や苦労があることなどに気づかせる。 ・聞き手には発表を聞いて、わかったことを感想用紙に記入させ、疑問点に対しては質問するよう促す。 ・今までの活動場所に戻り、自己評価カード |

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・発表のしかたや内容について、また他のグループの発表を聞いてわかったことについて自己評価カードにまとめる。 <p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 | <p>に記入することで自分の発表を振り返らせる。</p> <p>◎職場体験学習で学んだことを発表することができたか。(発表・自己評価カード)</p> <p>◎職場ごとの発表を聞き、職業についての知識を深めることができたか。(自己評価カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の発表会についての感想を述べ、次時は個人の報告書を作成することを話す。 |
|--|---|

3 資料

(1) 活動の様子 (みつば幼稚園)



(2) 活動を振り返って (川柳)

| | | | |
|-------|---------|-------|------|
| つい笑顔 | 店員さんに | ほめられて | T. H |
| お昼寝で | まったく寝ない | 子どもたち | K. S |
| ドーナツに | 込められた思い | 忘れずに | U. S |
| 裏仕事 | 役に立てたよ | 楽しいよ | C. A |
| シール貼り | 手際がいいねと | ほめられた | O. T |
| よかったな | 船に乗れたし | いい気分 | T. K |

4 成果と課題

(1) 職場体験学習を振り返って

様々な職業やそこで働く人々に目を向け、望ましい職業観や勤労観をもつことができた。また、国語科の学習で学んだプレゼンテーションの方法を生かして、職場体験の様子をまとめ、発表することにより、表現力を伸ばすことができた。しかし、受け入れ先の事業所の都合により、日数や時間、人数などが希望通り行かず、計画通りに進まない状況が生まれてしまった。

(2) 授業を進める上での課題

① 学校行事との関わり

総合学習の目標と各学年の地域との関わり方を理解した上で、学校行事の計画、実践をしていく必要がある。総合の時間を利用して行事の計画を立てているだけという活動になってしまわないように、その関連性を具体的にとらえ課題設定・追究につながるように指導していきたい。

② キャリア教育との関わり

本年度(平成27年度)から校内課題研修が「キャリア教育」となり、総合的な学習の時間の活動においても、その育成すべき能力や態度の関わりが求められるようになった。地域学習を通して、「キャリア教育」で目指す生徒像にどのように迫っていくか、研修に努めていきたい。

③ 生徒の能力との関わり

課題設定、課題追究の学習活動は、十分な基礎・基本が身につけている生徒にとっては学力を伸ばす絶好の学習となると考えられる。その一方で、課題追究の方法がわからず、資料の丸写しで終わってしまう生徒も少なくない。まず、学力の基礎を身に付けたり、調べ学習の方法を学んだりする時間を確保したい。